

令和4年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	平岡善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	【 <u>講義環境</u> 】科目によって講堂（大和）、メモリアルホール（太白）など講義スタイルに制限がある教室や、視聴覚設備の仕様が古い、操作が他と異なる、不具合があるなどの指摘があった。
理由		コロナ感染症対策による教室制限、時間割上の教室の重複や履修生の集中、年度毎に順次設備入れ替えをすることによる仕様や古さの違いなど影響などが考えられる。
②	課 題	【 <u>クラス別</u> 】同一科目複数クラス（キャンパス毎含む）について、課題や指導の違い、不公平感の指摘がある。
理由		教科書や教材の統一など対応されている。教員や受講生が違うのでクラス間に違いが出るのはある程度許容範囲。物理的に受講生人数の偏りが多い場合や教室環境に違いがある場合などは対応が必要。
③	課 題	【 <u>授業改善計画</u> 】非常勤科目も含んだ授業改善計画未提出科目について、授業評価アンケートの高評価や低評価が含まれており、検証が行われていない。
理由		担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	コロナ感染症による教室の制限は改善されるが、時間割の都合による教室の重複や受講生の多寡については、新カリキュラムの進行によって履修傾向がつかめるので、 <u>時間割編成</u> の際の参考としたい。また、各教室の設備面での仕様の違いやトラブルについては、キャンパス整備委員会からの <u>施設整備ニーズ調査</u> のタイミングで具体的に上程できるような準備を進めておく。
②	同一科目複数クラスの科目担当チームについては、すでに事前打ち合わせ等実施されているチームもあるが、できれば学期中に必要に応じて <u>打ち合わせや連絡</u> をおねがいし、 <u>授業方法や学生の様子、評価方法</u> などについて <u>情報共有、すり合わせ</u> をお願いしたい。複数教員によるゼミ制、グループ指導についても担当教員間の意思疎通について打ち合わせや <u>日常的なコミュニケーション</u> を心がけていただく。
③	群長および副群長より、未提出科目の責任教員に改めて <u>授業改善計画の目的を説明し、提出を指示</u> する。また、スタートアップセミナーⅠⅡについては <u>学群ごとに結果の共有や改善計画</u> が立てられるような区分、仕組みを検討する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- 課題内容や受講態度、ルールについて明確な指示を出す。かえって曖昧な方が学生からの評価が低い。
- 各回のポイントを明示したり、ミニテストや宿題で理解度を確認したり、細かいタイミングでやり取りをしている。
- 受講生が多い講義と受講生が少ない講義がある中で、それぞれの特性を踏まえた課題把握と良い改善計画がある。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- よい教材や課題文、教育方法については、授業評価の高い事例の教員から取り組み紹介をしてもらう。
- マイクロFDなどの機会を設け、より具体的な議論と情報共有の場を設定する。

令和4年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	高橋 和子

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 理 由	2年次の各看護援助論の「知識・技術、理論の習得や、知的関心」、「授業の到達目標に対する到達度」が、昨年度と同科目の授業評価よりも低くなっている傾向があり、今後の専門科目（特に看護学実習）の学習が懸念される。 上記の学年は、令和3年度および令和4年度前期の授業評価でも、専門基礎科目の到達度および看護援助論の知識・技術等の項目と、到達度の評価が他の学年よりも低い傾向にある（現3年生）。コロナ禍で、1年次から学習上の制約があり、2年次の後期は、出席停止となった人数も多く、知識の習得や学習の積み重ねがこれまでよりできていない（できていない実感が低い）可能性がある。
②	課 理 由	授業に関わる希望や要望が、授業中に行われず、授業すべてが終了した後に行われる授業評価で教員へ伝えられており、学ぶ過程に生かされていない。 授業評価の自由記載に、講義資料については、要点が分かるように文字の色を変える、要点を分かりやすく示す、必要な知識に関する資料は、全部は配布して欲しいなどの希望や、レポートは一人一人に改善点をコメントして欲しいなど書かれている。教員側の改善とともに、学生の学習方法、学習への取り組み姿勢への働きかけ、双方向での授業の在り方等も含めた検討や対応が必要となる。
③	課 理 由	出欠確認の方法やレスポンスのフォームなど、教員によって使用する学習管理システム（LMS）や、対応・方法が異なっており、不満や困難を感じている学生もいる。 各科目や、同じ講義内でも、教員によって指示内容が異なることで、対応のしづらさや、混乱を感じている学生もおり、教員側でも、可能な改善策の検討を要する。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<p>●学生の学修到達状況に応じた学修支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現3年生は、コロナ禍の影響で、専門教育科目の学習も制限がある中で行うことが多かった。グループワークや演習、看護学実習での実践学習の不足が、看護援助論の理解を難しくしている可能性もあり、今後の看護学実習で、知識と実践をつなげて理解できるよう意図的に関わりながら学習を支援する。 ・自己学習しやすい教材や、学習環境を活用し、看護実践能力の向上を図る（デジタル教材の活用、スキルスラボの整備等）。
②	<p>●学生の主体的な学習への取り組みの強化と双方向学修の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、レスポンスカード等の記載に対する授業時のコメントやフィードバックを行う。 ・学習方法や、フィードバックの方法を予め伝えておき、一貫した対応により、自主的な質問等を促す。 ・授業内で、適宜、グループワークやディスカッションを行ったり、ティーチング・アシスタントを導入したりするなどし、学生同士で疑問を解決する機会を取り入れる（実践科目あり）。
③	<p>●授業展開の方法の周知の徹底と科目担当者間での活用する学習管理システムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での課題提出方法等、シラバスに明記するとともに、初回の講義の際に具体的に説明する。 ・学習管理システムの活用方法について、学群内で一定のルールを定めて統一する（実施済）。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

・令和4年度後期の授業評価は、令和3年度後期と比較し、週当たりの学習時間が全体的に増えており、1年次の科目では、評価も高くなっている。看護学群では、現在、学群のWGが中心となって、レポートの書き方や、LMSの活用方法など、各科目に共通する学習対応の見直しと統一化を行っており、今後のより効果的な授業展開に向けて、学群全体として取り組んでいる。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

・令和6年度受審の分野別評価の評価項目と照らし合わせて、改善が必要な点を洗い出し、FDでの検討や、関係するWG等での検討を行い、教授会・教員会議で改善策を共有する。

令和4年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	学群生の学年全体が受講する科目のなかで多人数の科目があり、その科目の特性上多人数クラスでの運営が難しい科目がある
①	理 由	学群生の必修科目で学類問わずに履修する科目は年度単位の履修登録者数が200を超えることがあり、授業においては個別の指導内容が必要な場面のある科目などでは、大規模クラスでの授業に困難を感じるケールがある。
②	課 題	全学的に対面授業が前提となったことにより、通常の授業体制に復旧が進んでいるが、遠隔授業の実施において感じられたメリットをポストコロナにおいて上手く応用できないという懸念がある。
②	理 由	教室の利用についても平常化が進み、時間割通りの対面による教室等での授業が常態化している。他方、コロナ禍では通学不可だったことにより遠隔で実施した授業が、現在あまり利用されていないことに疑義も生じ始めている。
③	課 題	これまでのような教科書を使った授業方法とともに、多様な教育教材を利活用することで学習のレンジの確保が可能と考えられる。他方、こうしたソースの活用においては著作権などへの対応も重要。
③	理 由	遠隔授業の際に引用した資料を送信、放送するケースもあり、それらへの対応や手法の整備も進みつつある。この点に留意して教育研究機関としてのコンプライアンスへの対応も重要な話題となっている。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	この課題は事業構想学群ではかねてより話題になって来ていたが、科目内容の高度化、精緻化に伴い大教室で一気に授業をするということが馴染まないケースも現れてきていると思われる。科目内容の点検をしつつ、昨今の社会的な状況に応じた科目体系の検討、改善に向けた調整などを学群全体として意識して問題解決に向け動き出す必要があると言える。なお、コロナ禍において講堂での授業をしなければならなかった状況は徐々に解消され、普通大教室での授業に転換できているところもあるので、講堂特有の課題は解消されてきている。
②	これまでの大学教育においても、通学、着席、出席確認を前提とした授業を行い、その実態に基づいて成績評価、単位の付与が当然であったものの、新たな技術を活用した新しい科目運営の可能性をコロナ禍以降大きな話題になってきた。従前の授業方法に囚われることなく、通学、対面によるオンキャンパスでの学びの特性を活かし、遠隔授業等を利活用してオフキャンパスでの学び方を発展、展開させながら大学での学びそのものの充実拡充を目指すべき時期にきていることも実感させられた。この分野において大学も大いに挑戦をしなければならないと考えられる。
③	すでに整備、整理されつつある様々な手法を用いながら、知的財産である様々な研究成果、知見、資料などを多面的、立体的に活用し、それぞれの科目等で学習成果を向上させるための工夫に取り組むことの重要性が大いに増している。またこのような新規的な教育教材の開発、運用、実践、検証を重ねていくことで、大学における教育機会の提供の拡充、内容の充実を図ることも大学として重要なミッションとして捉えていくことが肝心である。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

キャリア開発Ⅰ・授業評価アンケートの自由記述では、「自分の将来を見つめることができた」「自分を知るワークが多くて良かった」「職業以外の自分の人生について考える機会となった」「学内合同企業説明会への参加を必須にもらったおかげで、外部の合同説明会では聞くことができない話を聞くことができた」「毎回提出するミニットペーパーはテーマが設定されており、ただの感想を書くよりも有効だと思う」などの肯定的な意見も多かった。今後の参考としていきたい。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

この科目は他人数教室で運用においてご苦労されている科目の一つである。個別のワークも交えながら受講生のキャリアデザインに資する内容がしっかりと埋め込まれ、事業構想学群の学生にとって個別の専門性を元にした進路のデザインを支援するものとなっており、改善の方向性は大きく参考となる。

令和4年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	知識や技術、理論の習得に役立ったり、知的関心が喚起されたことには高評価であるが、到達目標にたいする到達度が低い科目がある
	理 由	当該科目における到達目標が高すぎる可能性がある
②	課 題	「継続」令和4年度からスタートした新カリにおける科目構成および配当年次の妥当性の検証
	理 由	従来2年次に開講していた専門基礎科目を1年次に前倒ししたこと等による体系的な学修効果を調査する
③	課 題	週当たりの授業外の学習(課題レポート・予習・復習などに要した時間のバラつきが大きく、また、10時間前後の極端に長い授業が散見される
	理 由	レポートなどの課題の設定が適切となっていない可能性がある

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	当該科目の担当教員に、アンケート結果の検証をしてもらい、到達目標の妥当性を見直しを依頼する。
②	新旧カリキュラムが並行して開講していたので、1年次学生と2年次学生が同一の科目を履修していた。同一科目内でのアンケート結果を年次別に分けて検証し、科目の前倒しによる影響を調べる。
③	科目担当教員に今一度、予習・復習、課題の設定が適切であるか確認を依頼する。また、改善したほうが良い点では、「レポートの量が多すぎる、難易度が高すぎる」などのコメントがあった。実験系の科目では、「難易度については、ちょうどいい、易しい、という意見もあったことから、学生間で難易度の受け取り方に差がでたと考えられる」とのコメントもあり、学生間の学修において格差が大きいことに苦慮する実態がある。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

また、授業で使用したスライドを欲しいという意見がいくつか出ていますが、教科書があるということを理解して下さい。この分量の教科書、それも1回当りの分量はわずかです。そこから自らの予習・復習でどこまで膨らませるか問われています。授業で話す内容のうち、教科書に出ていない部分は、教科書からどのように様々なことを考えられるかという例ですので、「教員のまとめ」であるスライドを覚えるのではなく、まとめは自ら作ること、そして「考え方」を授業で習得して下さい。単に、経営学関連項目を覚えるためなら、一般的な経営学のテキストがいくらでも市販されていますし、内容にはほとんど大差はありません。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

急速に変化する現代社会においては知識の習得を中心とした授業ではなく、それらをまとめた上でどう捉えるかが重要であり、大学での学修とは何か、について議論をして行く必要がある。また、関連して、生成系AIをどのように利用していくかは喫緊の課題である。